

那覇港だより

な は みなと

2015. 9

第14号

☆☆

目次

☆☆

1	急増する大型クルーズ船の那覇港寄港への課題	・・・1
2	那覇港の防災・減災に対する取り組みについて	・・・2
3	那覇港管理組合議会行政視察に行ってみました！	・・・3
4	那覇港とぴっくす（那覇港の動き、那覇港管理組合議会の動き）	・・・5
5	那覇港写真館	・・・6



世界から島々へ 沖縄の玄関口 那覇港

急増する大型クルーズ船の那覇港寄港への課題

(企画建設部企画室)

近年、東アジアの著しい経済成長を背景とした世界的な国際クルーズ需要の高まりを受け、欧米大手のクルーズ船社は、中国を中心としたアジア、太平洋地域への複数配船、並びにクルーズ船の大型化を進めています。このような中、那覇港においては、全国でもトップクラスとなるクルーズ船の寄港を受け入れており、平成 27 年は過去最高となった昨年の寄港回数（80 回）を上回る約 120 回の寄港が予定されています。今後も寄港回数の更なる増加が予定されており、那覇港管理組合としても沖縄観光の振興に貢献できるよう、積極的に支援しております。

しかし、このようにクルーズ船の寄港ニーズが高まると同時に受け入れに伴う課題も増大しています。

那覇港のクルーズ船専用バース（若狭）は、1 隻のみ接岸可能であるため、

写真 1 貨物ターミナル内臨時タクシー乗降場に集まる乗客



複数同時寄港や 16 万トン級のクルーズ船寄港の際は、観光振興の観点から可能な限り、新港ふ頭の貨物ターミナルで受け入れております。

貨物ターミナルでクルーズ船を受け入れるためには、貨物船の係留や荷役作業等への影響を避けつつ、クルーズ船乗客等の安全を確保する必要があります。

そのため今年度については、岸壁から船客待合所間のシャトルバス運行費用を当組合が負担しております。そのほか、雨天時の対応、乗客等の安全確保に係る関係者との事前調整やシャトルバス及びツアーバスの待機場の確保並びにコントロール等を行っております。



写真 2 貨物ターミナル内を歩く乗客

港湾管理者の役割は、港湾施設の整備、維持管理及びターミナル内の安全管理に努めることであることから、当組合としても、港湾内の安全確保を図るべく努力しておりますが、増え続ける費用負担の財源確保等、負担が重くなっているのが現状であり、当組合だけで対応することは、非常に厳しい状況となっております。

当組合は、今後もさらに増えることが予想されるクルーズ船の対応について乗客等の満足度を向上させ、さらには沖縄県の観光振興に寄与できるよう、観光関係部局や各関係機関と連携・協力体制を築き、課題解決へ取り組んでいきたいと考えています。

那覇港の防災・減災に対する取り組みについて

(総務部総務課)

1. 港湾施設の防災・減災対策について

平成23年3月に発生した東日本大震災では、港湾施設も大きな被害を受けた一方、港湾施設が被災地の復旧・復興の拠点として重要な役割を果たしたことから、港湾施設における防災・減災対策の強化が求められています。

那覇港においても、防災・減災対策の強化に取り組んでいるところであり、平成25年度に想定津波浸水深や津波避難ビルの情報等を掲載した「那覇港防災マップ」を作成しました。

更に平成26年度からは、「那覇港防災・減災計画」(仮称)及び「那覇港港湾BCP」(仮称)の作成作業に取り組んでいます。現在、学識経験者、関係業界団体、行政機関からなる検討委員会で検討作業を行っており、平成27年度中の策定を目指しております。

2. 「那覇港防災・減災計画」について

那覇港防災・減災計画では、港湾利用者が安心して利用できる体制を構築すると共に、迅速な救援・復旧活動を行うための災害対応力の強化等を図る事を目的として、基本的な行動方針を定めることとしております。

具体的には、災害の進行段階に応じて、災害予防対策、災害応急対策、災害復旧・復興対策を策定することで、日常の災害予防から災害発生時の応急対策、その後の復旧・復興対策まで、切れ目のない防災・減災対策を推進することとしています。

<対策の例>

- ①災害予防対策：港湾内における避難路の指定、避難訓練、通信施設の整備など
- ②災害応急対策：利用者に対する避難支援、応急工事の実施、復旧資機材の確保など
- ③災害復旧・復興対策：復旧工事の早期着手など



3. 「那覇港港湾BCP」について

東日本大震災において、被災した港湾の早期復旧が被災地の復興に大きく寄与したことから、災害時における港湾機能の継続能力の向上に向けて、全国の主要港湾において、港湾の事業継続計画(港湾BCP)策定に向けての取り組みが進められており、那覇港においても現在、BCPの策定を進めているところです。

港湾BCPの主な内容としては、災害により損壊した港湾施設の復旧に向けての関係団体等との協力体制構築、被災から応急復旧にいたるまでに行うべき対応、復旧までに要する期間の目標値等を盛り込むこととしております。



那覇港管理組合議会行政視察に行ってみました！

(議会事務局)

那覇港管理組合議会(赤嶺 昇 議長)では、平成27年5月11日～5月15日の日程で、国内主要港(東北地方及び関東地方の港湾関連施設)を訪問する行政視察を行いました。

(1) 5月12日 釜石港(岩手県釜石市)、大船渡港(岩手県大船渡市)

釜石港及び大船渡港は、岩手県太平洋沿岸に所在する重要港湾で、釜石港は主として鉄鋼関連貨物、大船渡港はセメント積出の拠点港として発展してきました。

今回の視察では、担当者から東日本大震災の地震・津波により、釜石港及び大船渡港は、湾口防波堤の倒壊、ふ頭用地の損壊等、甚大な被害を受けたこと、震災後、ただちに応急復旧に取りかかり、暫定供用にこぎ着けることで被災地の復興に寄与したこと等の説明を受けました。

その後、洋上から大震災で倒壊した防波堤の復旧工事が進められている現場を視察しました。



釜石港の湾口防波堤復旧工事で据え付けられたケーソンを洋上視察

(2) 5月13日 仙台塩釜港仙台港区(宮城県仙台市)

仙台塩釜港仙台港区は、昭和46年に開港した堀込式港湾で、国際拠点港湾として、北米、中国及び韓国との定期航路が就航しているほか、東北地方で生産された完成自動車の輸送拠点としても機能しています。

今回の視察では、担当者から東日本大震災により、仙台港区は、ふ頭の地盤沈下やコンテナ流出等の甚大な被害を受けたこと、暫定供用しながら復旧工事に全力を挙げた結果、震災から2年でほぼ全施設が復旧したことの説明を受けた後、復旧したコンテナターミナルを視察しました。



震災被害から復旧した仙台塩釜港仙台港区高砂コンテナターミナルにて

(3) 5月14日 GLP東京Ⅱ（東京都江東区）

GLP東京Ⅱは、全国各地で物流施設を展開しているグローバル・ロジスティック・プロパティーズ（株）が運営している地上7階建ての物流施設です。

今回の視察では、担当者からGLP東京Ⅱは東京都心や羽田空港からのアクセスが便利な位置にあり、ランプウェイにより大型トレーラーが直接上層階まで乗り入れることで効率的な物流サービスを提供していること、免震構造を採用し、東日本大震災においても荷崩れが非常に少なかったこと等の説明を受けました。

現場視察では、荷役風景や免震構造等を視察しました。



GLP東京Ⅱ施設内にて。大型トレーラーが直接高層階に入れる大型物流施設。

(4) 5月15日 Y-CC横浜港流通センター（神奈川県横浜市）

Y-CC横浜港流通センターは、横浜港大黒ふ頭に立地する延床面積約32平方メートルの日本最大級の総合物流施設で、横浜市、神奈川県等が出資する（株）横浜港国際流通センターが運営しています。

今回の視察では、担当者から、Y-CCはPCコンクリート造りで耐震性が非常に高く、東日本大震災でも施設に殆ど影響がなかったこと、ランプウェイにより大型トレーラーが直接上層階まで乗り入れ可能なこと、立地条件が良く高速道路網によって関東一円、東北、中部地方まで直結すること、また、総合保税地域に指定されていることから、保税状態での加工や展示が可能となっている等の説明を受けました。

現場視察では、大型トラック直接乗り入れによる効率的な荷役作業が行われている所を視察しました。



Y-CC施設内にて。視察当日は施設内に乗り入れた大型トラックも見ることができました。

(5) むすびに

今回の視察では港湾関連施設以外に津波で甚大な被害を受けた岩手県陸前高田市を訪問し、市街地のかさ上げ工事等の現場を視察するとともに現地ガイドから復興の取り組みについて、お話を伺いました。

今回の視察を受け入れて頂きました関係者に厚く御礼を申し上げますとともに、視察で得た経験を安心安全な那覇港づくりに活かしてまいります。



那覇港とびっくす

7月28日、8月1日

大型クルーズ船 那覇港

～最多3隻同時・最大級船舶の寄港～

7月28日(火)に那覇港へ大型クルーズ船の3隻同時寄港がありました。3隻同時は初めてであり、3隻合わせての乗客数は7,495名と1日としては、過去最大規模の乗客を受け入れました。

更に8月1日(土)はアジア最大級のクルーズ船「クアンタム・オブ・ザ・シーズ」が4,605名の乗客を乗せて、那覇港へ初寄港しました。

平成27年7月28日 初の3隻同時寄港



那覇港管理組合 今後の主な予定

○那覇港管理組合議会11月定例会(11月中旬)

～那覇港管理組合議会のうごき～

国内主要港湾の視察(5/11～15)

○国内主要港湾(東北地方及び関東地方)の港湾関係施設を視察しました

県内物流施設の視察(8/7)

○ANA沖縄貨物ハブ及び国際物流拠点産業集積地域那覇地区4号棟を視察しました。

8月定例議会の開催(8/11～12)

○下記の議案が可決されました。

議案第1号: 訴えの提起について



那 霸 港 写 真 館



アジア最大級のクルーズ船「クァンタム・オブ・ザ・シーズ」(16万7,800トン)
那覇港初寄港(平成27年8月1日)



*****那覇港だよりに関するお問い合わせやご意見、情報の送り先*****

那覇港管理組合総務部総務課

〒900-0035 那覇市通堂町2番1号

TEL:098-868-2578 FAX:098-868-2629

e-mail: kumiai@nahaport.jp
